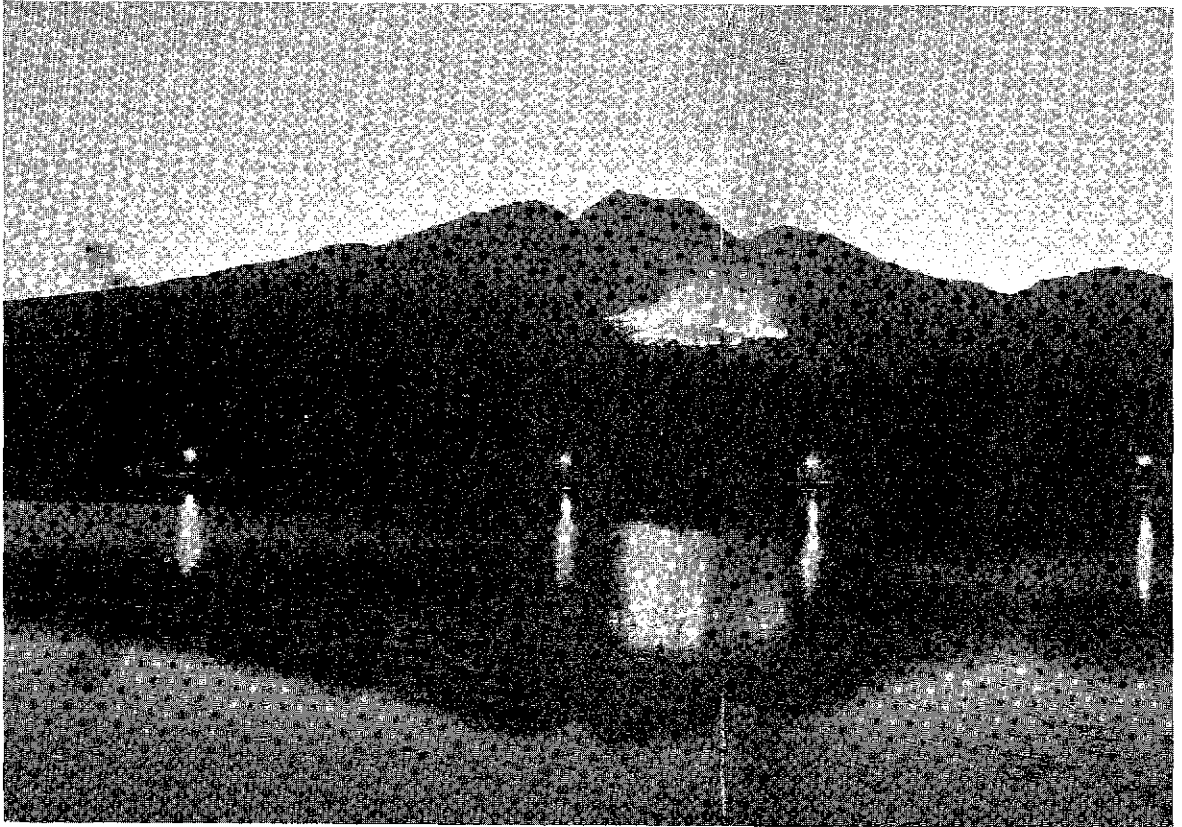


新潟県

平成4年

公民館月報

5月
第471号



赤あかと燃えあがる炎
田なる妙高山に向つて
激しく駆けあがる
その炎は俗界の

不浄を焼きつくす

その光は須弥山じゅみせんの頂を

眼前に投げだす

現世を忘れる

しばしのエクスタシー

春のセレモニー「大かやば焼き」

古い外套を捨て

緑の服に衣替えした

若者たちの歌声が

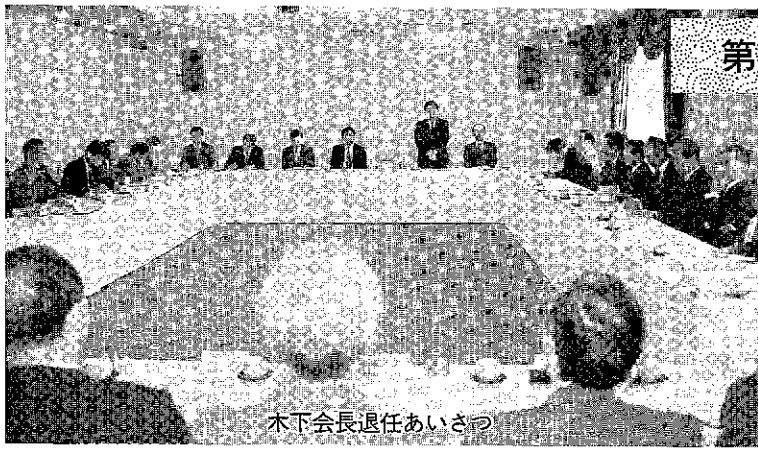
新しいときに向つて

聞えてくる

宮下保男

（妙高高原町公民館）

第1回評議員会開催



木下会長退任あいさつ

予算・事業計画等決まる

新しい風の送り手に!!

新会長は細川正博氏(新潟市中央公民館長)

四月二十四日(金)、新潟市平安閣を会場に、平成四年度第一回評議員会が開催された。平成三年度の会務並びに決算見込みの報告、平成四年度の基本方針・事業計画案並びに予算案が審議承認された。また、役員改選では、木下清一会長

の新潟市役所の人事異動による転出に伴い、新会長に細川正博氏(新潟市中央公民館長)を選任した。なお、評議員会終了後、会費持ち寄りによる情報交換会が開催され、和やかな雰囲気の中で交流を深めあった。

当日の出席者三十四名で会議成立。来賓に県生涯学習推進課課長補佐松本健司氏、同副参事島田重義氏、下越教育事務所社会教育課長桑原昭二氏、同副参事八木幸一郎氏を迎え、定刻午後一時三十分閉会された。会長木下清一氏が、

健司氏から、概要次のような祝辞が述べられた。

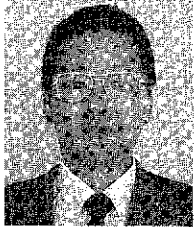
「県では、生涯学習審議会を新設し、これからの、県生涯学習推進の方向を打ち出していく考えであること。生涯学習推進センターが八月にオープンし、県内の行政・施設等とのネットワーク化を進め、調査・研究・相談・情報提供などを推進する予定であること。

県下の公民館においては、世をあげての生涯学習推進時代であり、住民の身近な学習施設として、高齢化社会への対応、とかくスポイルされる傾向にあるシニアへの対応、学校週五日制への対応など、多くの課題を

「自分も楽しく」をモットーに

私、四月新潟市中央公民館に異動、まもなく県公連の会長に就任ということで、とまどいを感じているこの頃です。

私同様、辞令一枚で異動された皆さんも似たような感じをお持ちのことと思います。



月刊公民館四月号で上村

をモットーに

会長 細川正博

捨二郎氏の主張「望ましい公民館長・職員」といい讃岐幸治氏の提案「新3Kの公民館」は共感するものがありました。

私自身、なぜか異動の都度、兼好法師の「先達はあらまほしけれ」という言葉が浮かびます。好むと好まざるとにかかわらず「やるしかない」というのが今の偽らざる心境です。肩肘はらず「自分も楽しく」をモットーに……。

持ち、それらの課題解決に向けて期待が寄せられているので、より一層の努力を」と。

このあと、議長に井部和夫氏(白根市中央公民館長)が選出され、議事に入る。

○平成三年度の会務並びに決算見込みの報告

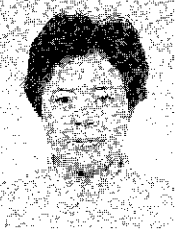
○平成四年度の県公連基本方針・重点目標・事業計画並びに予算案については事務局原案のとおり審議可決。

特に、「主事会」の再結成に向けての準備会の取り組みについて「社会教育主事等会との重複の問題」などもあることから慎重を期すようにとの要望がだされていた。

○任期満了に伴う役員改選では会長に細川正博氏を満場一致で選任。副会長並びに監事については、上・中・下越地区公連の推挙者をもって選任することとする。

また、理事についても、各地区公連推挙者を会長が委嘱することに決定。

以上の諸決議により、平成四年度の本会も始動することになった。その特色は、県下の公民館が、住民に対する生涯学習推進の「新しい風」の送り手となるために、本会もまた「隗より始める」ことである。



の現代では、どこに育っても文化は吸収できるが、「生」の芸術に触れたり、技術を身につけるとなると、環境

辛口

私は終戦後の混乱期、田舎に育った故か、とりわけ「文化」に対する憧れが強い。

情報化社会

人は環境をつくり、環境は人をつくる

飯塚 依子

をなしている公民館に今後ますますの活躍を期待している。文化はスポーツと違って、一朝一夕で、進歩が明らかになったり、環境が整えられる

平成4年度 新潟県公民館連合会基本方針・重点目標

今、国をあげての生涯学習時代を迎えている。公民館は、この新しい時代に向けて、住民に対する「新しい風」の送り手として極めて大きな期待が寄せられている。

国の生涯学習審議会は、「公民館の整備・運営の在り方について」の中間報告を行ない「公民館は市町村における生涯学習の中核的施設」と位置付け、これが施設整備・運営の充実を期待している。その方向を要約することに、これまでの事業をより一層充実することに加えて、「ネットワーク化」への取り組みを示唆しているものと捉えたい。この提言を踏まえつつ、

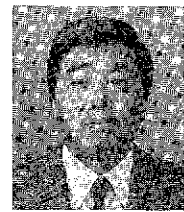
- (1) 研修の充実
- (2) 情報提供の拡充
- (3) 組織の強化
- (4) 財源の確保

を重点目標としてとらえ、県下公民館のより一層の施設設備の整備、活動の充実強化に資することとする。

ものではない。精神的活動が多くを占めるものであるから、もどかしさを感じたり、贅沢に感じるかも知れない。しかし、美しいものを美しいと感じ、その感動が心を呼び、言

若者の参加が大きな課題

小見山 紘喜



物の時代から心の時代、地方の時代と呼ばれて久しいが、現代の

よりな多様化した社会的背景の中で、特に時代を担う若者層に、公民館活動をいかに理解を促すことが出来るか、市などにとって大きな課題となつて

ひろば

このように、公民館全般を客観的にとらえた場合、その活動は壮年層から高齢者層に片寄っていると言え

小千谷市公民館の現状は、中心部からの広範な山間地を抱えている関係から、市の社会教育施設である市民会館内に本館を置き、片貝町、東山に地区館を、そのほか各地区のコミュニティセンター内に三十五分館を配している。

しかし、行政の事情もあり、多分散にもかかわらず、専門職から活動の停滞は否めない状況である。が、そのような中でも特筆すべきは、昭和四十五年に約五十名の高齢者が集まって設立された「富久寿大学」は、現在一千四十名にまで膨れ、市内

策定された生涯学習の関連等にも、公民館が大きく関与することになるが、地域差も含め、これからの当市公民館運営計画に難しい課題となることは間違いない。各地PTA、社会教育団体、スポーツ団体等々の一層の連携が必要になる。 (小千谷市公民館運営審議会 委員長)

公民館実践記録シリーズ

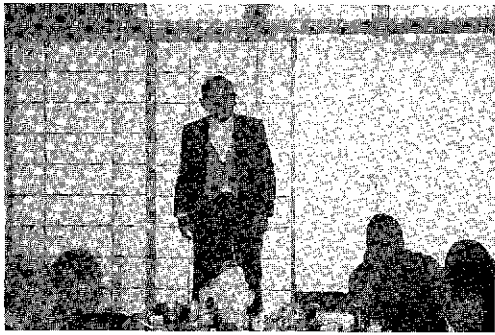
Part II

高齢者教室花ざかり

おらにも一言

言わせてくれっしやい!!

名立町公民館



もし、生まれ変わったら

公民館の高齢者対象事業は、どこの市町村でも参加者を集めるのに苦労はしないという。だからといって、学習計画をいい加減にすることは許されな。そういう気持ちで、常に事業の工夫をこらしている、名立町公民館のユニークな高齢者対象の事業の一端を紹介してもらった。

一、老人クラブについて
名立町は上越市の西側に隣接する人口四千人の町である。町内の六十五歳以上の高齢者人口は八六七人で、町人口の21%を占めている。町内には四つの老人クラブ組織があり、それぞれのクラブで独自の活動を展開するとともに、全体が一つになって、町の老人クラブ連合会を結成している。

二、人生放談
その狙いとするところは、自己主張をすることになれていない高齢者の心を開かせ、自分を発表し合うことから、お互いの認識を深め合い、更なる親愛と連帯の絆を強く太いものにとしようというものである。

町公民館では、この老人クラブ組織を母体として「名立町高齢者教室」を開設している。したがって、学習活動は町全体を一つにして実施するものと、各クラブ毎に実施するものとの組み合わせで年間の学習計画が立てられている。なお、公民館では老人クラブ会員の学習ニーズに応えることと、自主性を尊重する立場から、運営委員会の意見

見を聞き計画を立てている。ちなみに、平成二年度の「高齢者教室」の年間学習計画は別表のとおりである。

生まれ変わって総理大臣になったら上越市から糸魚川市の間を長野県にしたい。糸魚川と名立間は道路を二本にしたい。鳥ヶ首から直江津までは海へのぼした橋を架けたい。

私は生まれた時は身体が弱かったが、徴兵検査では甲種合格となり、前知事健男(故人)さんと一緒に満州へ行った、と若い日の話がでる。

山中で道に迷い野宿して、ようやく高田へ辿り着いたら、髭がぼうぼうに延びていて、変な目で見られて恥ずかしかったこと。

人間は、赤ん坊のおしめは可愛いのに、七十過ぎてからのおしめは憎たらしい。この差をどう考えたらいいのか? と真剣になって問題を提起した女性もいた。

豆腐屋に嫁いできたが、豆腐づくりがなかなか難しく、辛い

「私の夢物語です」と前置きした一人は、いま一度この世に

名立町高齢者教室年間学習計画表

学習主題	生きがいを考え、豊かな人生を送ろう。			
学習日	健康に注意し、楽しい仲間づくり、豊かな経験を生、生きがいのある生活を送る。	時	学習対象	指導講師
ゲートボール講習会	7月28日	9:30~12:30~	山海夕 南郷合同	丸山男治
高齢者体育の集い	7月14日	9:30~	全クラブ	
ゲートボール大会	7月17日	13:30~	全クラブ	
町内巡検	10月4日	9:30~	山海夕	公民館職員
	10月18日	9:30~	南郷合同	
ちぎり紙はり絵	10月29日	9:30~	山海夕	子田真一 鈴
人生放談	11月16日	9:30~	千歳会 長生会	公民館職員
	11月22日	9:30~	相生会 山海夕	
健康の維持法	12月5日	9:30~	千歳会	保健婦
	12月12日	9:30~	長生会	
	12月19日	9:30~	相生会	
	12月17日	9:30~	山海夕	
明るく楽しく暮らすために	3月6日	9:30~	千歳会	伊藤左近
		13:30~	相生会	
	3月13日	9:30~	長生会	
		13:30~	山海夕	

生まれ変わって総理大臣になったら上越市から糸魚川市の間を長野県にしたい。糸魚川と名立間は道路を二本にしたい。鳥ヶ首から直江津までは海へのぼした橋を架けたい。

私は生まれた時は身体が弱かったが、徴兵検査では甲種合格となり、前知事健男(故人)さんと一緒に満州へ行った、と若い日の話がでる。

山中で道に迷い野宿して、ようやく高田へ辿り着いたら、髭がぼうぼうに延びていて、変な目で見られて恥ずかしかったこと。

人間は、赤ん坊のおしめは可愛いのに、七十過ぎてからのおしめは憎たらしい。この差をどう考えたらいいのか? と真剣になって問題を提起した女性もいた。

豆腐屋に嫁いできたが、豆腐づくりがなかなか難しく、辛

「私の夢物語です」と前置きした一人は、いま一度この世に

い仕事だった。そんなとき、おばあさんに豆腐の歌を教えてもらって元気づけられた話。などなど、発表内容はいささか回顧的な話が多かったが、いはあるが、きわめて活発な話し合いが続いた。

発表は予想以上に活発で、予定していた二時間の発表時間が短いほどであった。その上、次回「人生放談」会では次のような「テーマ」を明確にするよう、要望が出された。

○これからの社会に伝えたいこと。

○若者に期待すること
○町をどうすべきか
(名立町公民館長 金子安三記)

「私の夢物語です」と前置きした一人は、いま一度この世に

山北町公民館

見事に復活した集落公民館

山北町堀ノ内集落公民館の場合

実践記録欄を拡充し、中央館・地区館など本館の実践記録とともに、分館や類似施設の活動紹介もつとめて取り上げることにした。ここに取り上げたのはその第一号である。

一、はじめに

山北町は、狭い平地の上に大小四十八の集落が点在している。この集落を

単位として(小さな集落の場合、数集落で一単位)三十七の集落自治公民館(以下「集落公民館」という)が組織され、地域の実情に即した形で運営されている。

これら集落公民館の起源は、四十年前に溯る。山北町は五か村が合併して誕生した町で、この旧村時代に集落単位に設置されていた「分館」に始まっている。当時、村当局の施設に協力して、衛生教育(ハエ、蚊の防除)や産業教育(稲作講習、養蚕講習)などを事業の中心に据えていた。

しかし、時代の流れと共に人々の学習課題も変化し、生活スタイルも大きく変わった。活動の現場ではいろいろな問題が生起し、時には、「あきらめ」と

「挫折」が支配し、時には「改革の炎」燃え上がるといった人間模様が繰り返えされてきたのが実状である。

二、堀ノ内集落公民館の今昔

ここに紹介する堀ノ内集落公民館もその例外ではない。堀ノ内集落は、役場所在地の府屋集落から約一軒上流にある世帯数五十七、人口百八十九名(平成四年四月一日現在)の小集落である。昔から大工などの職人が多く、したがって学校教育終了者の町外流出、さらには長期出張者の数が今でも多いことが特徴である。

このような現状下で、集落に残った人々たちによる「集落づくろい」が行なわれているが、その中核として機能しているのが堀ノ内集落公民館である。

堀ノ内集落公民館は、昭和五十三年に規約を作り、館長、主事各一名と、それに総務・産業・婦人(婦人会)・壮年の四部を設

置して運営してきた。館長は集落総会で選出し、主事、正副部長などの役員は全て館長が任命した。事業も各部長を中心に計画実施されてきた。



しかし、事業費が多くかかるという点、さらには、役員となり手がいなくて困るという点から、従来の組織を全廃して総代(区長)が館長を兼務し、事業はすべて主事が計画するなど、公民館活動としてはふさわしくない状態がしばらく続いた。

ところが、総代が二つの職を

兼務することにより、仕事の負担が大きくかかること、公民館活動をじっくりと真剣に考えていく必要があること、それに地区の他の集落公民館が全て独立館だという理由から、平成三年一月の集落総会で公民館組織の見直しが決された。そして、調査研究を重ね、十一月の臨時総会で構想が承認され、平成四年一月から(区から)独立の公民館として再発足した。

三、現在の組織と財政

新組織では、館長、主事各一名、役員三名、それに婦人部(婦人会)、子供会育成会が設置されている。館長は集落総会で選挙で選ばれ、その他の役員は館長が任命することとなり、任期は一月から十二月までの一年である。現在、部制度は設置されていないが、近いうちに設置が予定されている。役員三人は、地区公民館事業(壮年ソフトボール大会)・体育祭・敬老会)に対応するため、実行委員として位置付けられている。

また、財政面では、平成四年年度で事業費が十五万円、管理費十二万四千円、合計二十七万四千円を助成してもらっている。それに、町からの活動助成金約五万五千円(均等割、世帯制で算出)を加え、地区公民館事業、

盆踊り、研修事業にあてている。来年正月には、年賀一統札も行う予定である。

四、むすび

最後に、集落公民館と本館との関係についてふれておきたい。結論から先に言うならば、両者の関係は完全に対等である。前節で述べたように、町からは活動助成金を補助するだけで、一切の口出しはしない。求められれば指導助言を行う程度で、モデル推進事業などを依頼したりすることもない。ただ、昨年は本館と堀ノ内集落公民館との共催で「家庭教育講座」を開設した。この講座開設のねらいは、家庭教育の大切さ、地域教育力の重要さを理解することにおき、当日は子どもからお年寄りまで約二十名が集落公民館に集まり、お互いに話し合った。山北町の場合、古くから集落公民館の位置付けを重要視してきた。しかし、今、集落公民館は大きな岐路にさしかかっている。伝統の上にあぐらをかいてばかりはいられない。時代は変わり、人の意識も大きく変わっていることを直視する段階にあるように思われる。

(山北町社会教育主事

木間 清記)

月報相談室

「公民館は、基本的には日常生活圏内の住民を対象とする社会教育施設です。地域住民のひとりひとりの学習の場として、談論し読書し、お互いの交友を深める場として、各種団体等が相提携して地域の環境改善にとりくみそれを推進する場とする施設です。」(「急激な社会構造の變化に対処する社会教育のあり方について、から)又、事業については社教法22条に示されていますが、これを、四つの視点から、公民館経営のための基礎的事項のみ記します。

一、教育施設としての配慮を

公民館は、単なる借しホールや集会施設とは違います。施設そのものに教育的配慮が必要です。例えば、図書室を整備していつでも住民の利用に供されるようにすること。(独立した図書館があるから、公民館の図書館は不要という考えをまま聞くことがありますがそれはあたらない)また、ロビーが肩のこらない談話のできる空間であるばかりでなく、展示機能を持たせて絵画等の文芸作品の展示や、事業紹介等の情報提供の場などとして

計画的に進める工夫が大切です。更に、学習者や利用者の自主的な活動を助長するため、印刷室(印刷機)等の利用や、学習相談への対応などにも配慮する必要がありますが、

要は、公民館に一歩足を踏み入れただけで教育施設の雰囲気が入り込んでいくことが大切で、とは言っても、固苦しさが先にたつようでは禁物です。

公民館は何をするところ？

今年も又、公民館に新しい館長・職員の方々が赴任されました。そして、一様に「公民館は何をするところか?」と戸惑つ

ている姿が目に見えかびます。当編集部にも一・三の方から電話相談がありました。「公民館は何をするところか?」と戸惑つ

近年は、女性の学習意欲が高まる中で、育児室の設置や育児ボランティアの用意などが若い母親の要望として強くなっています。生涯学習の推進に対応して、取り上げなければならぬ課題でしょう。

このように公民館を教育施設として管理や運営する仕事があります。

二、主催事業の実施

公民館の事業には、大きく分

けて、住民の自主的利用に供するものと、主催事業とがあります。主催事業とは、いわゆる学級・講座という学習活動や、集会活動・文化活動などがあり、事業計画の立案・学習プログラムの作成から予算に至るまで(たとえ、それが学習者の意見希望によるプログラムであっても)公民館で実施するものが主催事業です。

この主催事業で勝負するのが公民館の在り方だと言っても過言ではありません。主催事業の充実度でその公民館の評価がで

係者は、住民のニーズに応える「要求課題」と、住民のニーズがなくとも「必要課題」として対応しています。地域の課題を取り上げ、青・少・女・成人のどの階層にどんな手をうつ必要があるのか、また、効果的な取り組みの方法などを検討して事業を展開することです。

したがって、まず昨年度までの事業の「計画・実施・評価」について検討することから取り組んでいかなくては、その際必要になるのは、地域(あなたの公民館のサービエリア)の実

「月報相談室」開設第一号としてこの問いに答え、初歩的、基礎的部分を記します。

三、各種リーダーの把握や育成

地域の教育力の向上や、安全で快適に住める地域づくりは住民の主体的な活動によるもので、そのために、公民館は地域内のリーダーの把握と育成が重要な仕事になります。

リーダーには、各種の団体のリーダーの他に、公民館利用のグループやサークルのリーダーもありません。あたかも、小中学校の学校給食の役割に似ています。このことを、先輩公民館関

を活性化することは地域の活性化に不可欠ですし、共生共助の地域社会をつくるのが公民館の大事な使命であることからその重要性が分かります。また、ボランティアのリーダーの育成も今日的な課題となっています。したがって、公民館自身が研修会を主催したり、簡単な指導をしてやることなどが必要でしょう。

四、生涯学習推進センターの役割

生涯学習の推進に向けて、市町村では、推進体制の整備を進めています。ここで公民館の役割は生涯学習推進センターとしての役割機能を持つこととされています。

生涯学習推進のための、啓発に関わることや、情報の提供、相談などのサービスタワーであったり、ネットワーク化などが期待されています。

ネットワーク化の役割は、もともと団体や各種機関との連携・協力という観点で、公民館の重要な役割とされてきました。これからは、より一層公民館が主導的に役割を果たさなければならぬでしょう。以上公民館職員(館長を含む)のやるべき仕事の入門的なことについて記しました。(上村)

サークル交流

「岩絵具ってなんだ」 日本画の会、栃尾彩遊会

二十歳を過ぎた頃の数年間書道に凝ったことがあり、何か趣味の域を広げたいと思い昭和六十一年公民館主催の日本画教室を受講し、このとき初めて岩絵具と出会いました。

それまで日本画のイメージは墨を使う水墨画を想像していましたが、粉末の岩絵具を膠液と調合して描く日本画技法には戸惑ったものです。昭和六十二年先輩の大橋先生を中心に、教室を終了した有志



で「栃尾彩遊会」を結成し、毎月三回夜市公民館学習室に集まり勉強会を行なっています。

現在会員は三十七名、平均年齢四十歳前後のお母さん達が中心で、男性会員が少なく圧倒されていますが、和気藹々の中で思い思いの作品に取り組み、会員からは市長賞、県展奨励賞等毎年多数の会員が入選し、着実に力をつけています。

年に一、二回会員の親睦を兼ね妙高高原や尾瀬が原などへ写生会に出かけ、遊び心のなかに作品を作る、「彩遊」に心がけ、少しづつ芸術の世界をのぞこうと皆んなで頑張っています。

(大崎 照記)

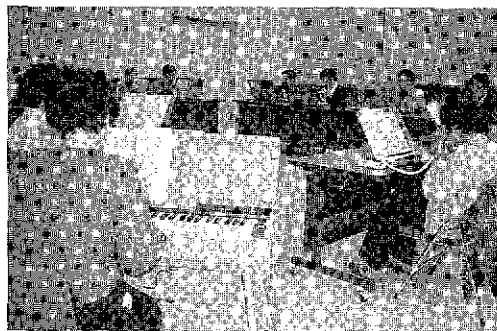
心ふれ合う施設訪問

荒川町 三つ葉サークル

私達サークルは、昭和59年に発足致しました。

子どもの頃覚えた曲を歌ったり鍵盤ハーモニカで演奏をします。現在の仲間は78歳を頭に23名。月二回の練習日です。町の老人大会での発表、近隣町村の施設訪問などを行っております。

或る施設を訪問した時のこ



と。すっかり顔なじみになっていく園生さん達は、手をつないでくれたり肩につかまったりして迎えてくれました。

「証々寺の狸囃」を打楽器等つけて賑やかに合奏しました。皆さんは、手拍子やら歌うやらしまいに踊り出すやらで曲がメチャメチャになって、みんな大笑いの楽しい交流になりました。

平成三年度には、館長さんからのお口添いもあってピアノを購入していただき、私達の練習にも一段と励みを与えられました。公民館の皆様の温い御協力にいつも感謝しております。

(山田 ミエ 記)

三条市大崎公民館主事

阿部 博文 (29歳)

昨年四月一日に、税務課から公民館へ配属されて、「あつというまの一年でした」と彼はいつている。しかし、この一年間で公民館活動の全てを知り尽くして、いまは彼なくして大崎公民館の活動はやっていけないといっても決して過言ではないとまわりの人たちからも思われている。以前



の職場が少しかたく思われているので、一つの分野で活躍する日が来ることを思う、今日この頃である。(三条市大崎公民館係長 土田健四郎 記)

素顔 拝見

相川町公民館主事

岡部 欽也 (33歳)

公民館(社会教育課)に勤務して六年というベテラン。これまでどんな仕事をしていたんですか?



「担当は分館単位ですが、その分館に関する全部に関わりますから、特定の分野というのはありません。」

「昨年までの五年間は北部地区公民館の勤務で、私一人で全部の仕事をしてきたんです。中央館に来て一年目です。中央館は、町中のいろんな人と出合うのが楽しいですね。それに学習意欲の高い人が多くて、とても張りあいがあります。」

「今どんな仕事を担当しているんですか?」

「この規模の町では、職員体制は整備されている方だと思えます。(主事が8人)皆と仲よく仕事をしています。でも、その割にイベントに迫りまわされて、地区に入りこめないうのが悩みです。」と申しわけなさそうに答えてくれた。

(上村 記)



ボランティアへの返札をこめて

「絵本とおはなしの学習会」レポート

十日町市公民館

公民館図書室でも、児童に読み聞かせなど楽しい行事をしてほしいという利用者からの働きかけで、昭和61年にボランティアグループ「読み聞かせの会」と「読み聞かせの会」が結成された。以来、絵本の読み聞かせのほか、影絵、パネルシアターなどいろいろな活動を通して図書活動を援助していただいている。

アップをはかることが、ボランティアへのわずかばかりの返礼になると考えている。

この学習会は、講師の選定、学習内容等を「どんぐり」に任せて実施した。講師は市村久子さん。学習日は3月7日。「どんぐり」の会員、保母、主婦など約35人の参加があった。

学習は、子どもの心の成長と絵本やおはなしの結びつきや、おはなしのもつ魅力を中心に話が進んだ。途中、絵本や童話を数冊選んで素語りのおはなしをしていただいた。とりわけ、「ふ

この四月から公民館の担当になりました。よろしくお願います。

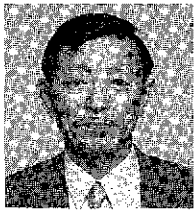
生涯学習社会の時代を迎え、地域住民の中核的推進施設としての公民館の役割は、これまで以上に重要となってきました。「生涯学習の町づくり」の中心となる公民館の活躍に期待し、貴連合会との連携をこれまで以上に大切にしながら業務に当たる所存でございます。よろしくお願います。

高まる公民館への期待

県生涯学習推進課副参事 島田重義

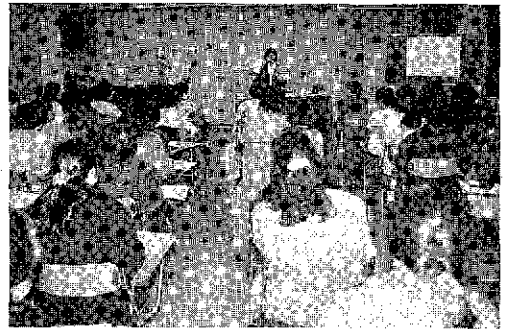
最初に、貴連合会が果たしてきたこれまでの実績に対し、心から敬意を表します。

住民の学習要求は高度化かつ多様化が進み、公民館への期待は



まますます大きくなってきています。

「生涯学習の町づくり」の中心となる公民館の活躍に期待し、貴連合会との連携をこれまで以上に大切にしながら業務に当たる所存でございます。よろしくお願います。



しぎなオルガン(二岩波書店)は、クラシック音楽を聴いているような感銘を受けた。主人公のオ

まちからまちへ

市町村の隠れた名所紹介のコーナーです。

【聖籠町の巻】

聖籠町にはいく列かの砂丘列があり、そこで人々は縄文の時代から生活を織りなしてきた。人だけでなく、植物もまたその風土にあった根のはりかたをしてきた。その一つにアベマキ



根上がり松

樹林(ブナ科。西日本に多く、高さ約十五m。コルク層が厚く、10cmにも)がある。北蒲原地方の砂丘地に分布するが、本町次第浜・山王森の樹林は県内でも

最も規模が大きくまとまっている。町の史跡公園、そして県の環境保全地域に指定されている。

ルガン師が、流浪の末に郷里に戻り教会に足を踏み入れるシーンでは、私の頭の中で確かにオルガンが鳴りだした。

絵本や童話が人の声を通すと、ことは驚くような変化をとり聞き手に伝わることでよく実感できた。

あとがき

「ぐりとぐら」の著者中川李枝子さんお手製の人形、90年前と変わらないビーターラビットの舞台となったイギリスの湖水地方の美しい景観、楽しいおはなしの世界。どれも会場からためいきが漏れるほどで、手前味噌ながら満足できる学習会になった。

今月から本紙のメインである四・五・六面の内容を変えることにしました。

(十日町市公民館 春日弘之記)

実践記録を短篇で数多くという要望に応じて、四・五面に、相談・質問に対するものを六面に配しました。

年間十二回発行のうち、半分程度をこの方式で組み、残りの部分は、従前どおり特集を組むつもりです。(上村)

発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市川端町2-9・県林業会館内】

【電話・新潟 (025) 224-6073】

発行人 会長 細川 正博

編集人 事務局 上村 捨二郎

【定価1部130円 年共1,560円】